平成21年度第3回大阪府文化振興会議　議事概要

◆日時：平成22年1月27日（水曜日）午後3時から5時

◆場所：さいかくホール（大阪府新別館北館1階）

◆議題（1）「答申（案）」について

【事務局説明】

【意見交換】

（タイトル、「めざす将来像」について）

・サブタイトル「文化力にあふれ躍動する都市大阪をめざしてから支えられる文化を超えて：文化の力が都市を創る、都市の力が文化を育むから」を何とか短い言葉、ワンワードで、魅力的なものにしたい。「躍動する都市」とは結局何なのかよくわからない。この言い方が、クリエイティブかどうか。

・「支えられる文化を超えて」は、あえて民とか官とか、対立するような言葉を出さないで、なかなかの表現だなと思った。確かに、躍動する都市というのは、本当にどこでもあてはまるという意味では、インパクトがないが。

・「支えられる文化を超えて」というのは、「脱却して」でもいいかもしれないが、よくできているなと思う。

・今回の大きなキーワードは、おそらく「官主導から民自律へ」ということ。文化振興、文化創造は民が自律することが大事だというところを、もう少しちりばめる必要があると感じた。サブタイトルに使うのはどうか。

・「文化体験都市」。それは要するに、今は体験の重要性が非常に高くなってきており、いろいろな文化をいろいろな意味で体験していくということ。

・「体験都市」は、確かにその通りだと思う。去年の水都大阪、年末の中之島や御堂筋のイルミネーションで、意外と大阪の人は体験するのが好きなのだなということを実感した。

・短い言葉をトライするならば、「文化自由都市」。

・なぜアーティストが逃げていくのかというと、やはり東京のほうが、もうかる、稼げるということがあるからで、そのときに、お金がありそうな東京よりも、大阪のほうが魅力的ですよ、得するよということを、どう訴えるのか。私の考えは、何かトライできるという、自由ということ。

・大阪の本領というのは、市民がこれまで行政に頼らず、公会堂を寄附し、また面白いものが出てきたのは、俺たちが自分の手で文化を洗練させていくのだという意気込み。

・市民が何かやるときに、文化活動であるなら、ここの魅力を上げるのであれば、自由自在にやれるようにしますというのが、今回お金は出さないというときの引き換え条件ではないかなと思う。

・自由という言葉は私も非常に好き。差別化というのは、ものすごく大事だと思っているのだが、文化力にあふれ躍動する都市といえば、別に大阪でなくても、どこにでも通用する言葉であって、選択と集中が一切ない。グローバルな都市間競争の中で、大阪は違うんだよという、そういう文化振興のあり方を提示していかないと、結局埋もれていく気がする。

・そういう意味で、今の知事の方向性からだと、何かエキサイティングという言葉があると思う。

・非常にいろいろなものがこれエキサイティングで、熱血都市とかエキサイティング大阪とか、躍動感を違う言葉で、何か差別化した言葉がほしいと思う。

・「文化新発見都市」とか、「文化万華鏡都市」。例えば万華鏡は、どこから見てもいろいろな形になってすごく楽しい。

・海外の演出家に、何でそんなに大阪が大好きなのかと聞いたら、大阪は“ラテン”だと言う。大阪は、すごくエキサイティングな都市、あるいは人種と、海外から見られているのではないかなと思う。観客をわかせるエンターテインメントを大阪は作るのだとか、エキサイティング・エンターテインメントという、結構、際立った感じでやったほうが、面白いのではないか。

・エキサイティングもいいが、橋下知事ではなくてわれわれ文化振興会議で出す言葉なので、「熱い文化が創造される自由都市」という感じか。

・お客さんの勢いを見るとエキサイティングというのはそうだと思う。演劇のファンなど、日本で一番大阪のファンが熱い。アーティストはみんな大阪の公演が一番楽しいと言い、一番盛り上がるので、大阪で終わるツアーが非常に多い。

（「はじめに」について）

・今回、諮問を受けているのは、大阪府の役割を明示せよということだが、原案では大阪府という主語でどのような文化、何をするのかということが書かれていない。

・「政策課題としても、都市づくり、教育、福祉など、あらゆる分野に」のところに、「観光」を入れるべき。今は国でも「環境、観光、健康」という形で、観光が都市の魅力を表す非常に重要なポイント。

・人的資源が非常に重要と考えている。「この地域固有の文化資源」という文化資源の中に、人的財産の活用ということも入れておいて欲しい。

（4つの理念について）

・「社会を支える文化」だが、ここに「社会・経済」とか、「社会と経済」とか、経済をぜひ入れていただきたい。産業構造が変革したから文化が中心産業になるのではなくて、文化を使って産業構造の変換を図って、だから文化が次の時代の産業になる。古くて新しい言葉で言うと、文化の経済化、経済の文化化という表裏一体の関係があると思う。「社会と経済を牽引する文化」みたいな感じか。

・「都市全体に開かれた文化」は、街角が舞台になって市民自らがアクターだったというような文章が入れば、分かりやすくなる。

・「守る」に対して「攻める」というのは、こういう表現しかないのだろうと思うが、あえて言うならば、経済をもっとライブさせていく、社会をもっとスマートにさせていくという意味では、「攻める」よりも「創造する」文化。革新を続ける文化みたいなものだと思う。

・「アーティストがめざす都市」については、大事なポイントは、われわれが広くとらえている文化の文脈からいうと、アーティストだけではなく、デザイナーとか建築家とか、クリエイティブクラスの人たちなど、もう少しここの集団を広くとらえるべき。建築家は世界的に見ると、大事なキーパーソン。

・「アーティストがめざす都市」。アーティストというのは、ちょっと狭いのかなという気がする。とらえ方だと思うが、クリエイティビティーを持った人という意味でクリエイターなのかなという気がする。

・韓国のアーティストのコンサートを、東京でやらないで日本で大阪だけでやってみると、韓国や全国からお客さんがお見えになった。大阪だけでこういう大きな1万人単位のイベントが可能ということが分かり、経済的にも大きな効果があったと思う。4つの理念の中で、「アーティストがめざす都市」ではなくて、「アーティストがめざす場を持つ都市」というほうがいいのではないか。

（戦略等について）

・大阪城ホールも、大阪ドームも、音響やアクセス面で非常に素晴らしい設備を持っているが、そういう場が大阪は非常に少ない。

・財界の方に、劇場・ホールを造ってくれませんかという呼び掛けをすると、ほとんどが、府や市がお金を出しやすい環境づくりを全然してないから、お金の出しようがないという答えが返ってくる。

・府とか市に金がないのは分かっているが、トップの知事などが「劇場が必要だから協力してくれませんか」とか、そういうお金がなくてもできる音頭取りをもっとするべきだと、皆さんおっしゃっていた。そういうことが大事だと思う。

・また、固定資産税を免除するとか、寄附したら税金がかからないようにするとかそういうことを、積極的に府で考えていただけたらいいと思う。

・7ページ、御堂筋、水の回廊もいいと思うが、中之島も非常に大事ではないかと思う。

・年末から年始のイルミネーションでは、中之島と御堂筋という、大阪の魅力的な素材があって、それを同じように光らせているのに、今少し連携がうまくいっていないのではないか、もうちょっと一緒にアピールしたらと感じた。大阪府と大阪市が、一緒に何かをやっていくというイメージがどこかにあったらいいと感じた。

・今後数年間の大阪府の文化を考えると、梅田の北ヤードの開発がどうなるかということが、すごく大きな関心事。新しい都市づくりの中で、文化振興についても、こういう視点でかかわっていくというようなことが、時宜的にはあってもいい。

いろいろな戦略の中でも、プライオリティが並列ではなくて、どれを一番の重点順位にしていくのかという、プライオリティのつけ方が、やはり選択と集中が重要。

・本当にうまくまとまったと思うが、どれだけ素晴らしい理念や理想、あるいは提案がきれいにまとめられても、実際に具体的にどれだけやるのか、どうなるのだろうという思いがある。ぜひ、予算の問題ももちろんあるとは思うが、予算はなくても何かやろうとか、少ないけど何かやれるものをやろうとか、答申が具体的に活かされることをよろしくお願いしたい。

・イルミネーションの関連事業として、御堂筋で、1月の土曜日、日曜日、4カ所の街角ステージをつくったが、びっくりしたのは、ぜひ御堂筋に出たいと全国から、この寒いときにクラッシック、ポップス、ゴスペルなど85組の方から応募があったこと。非常に御堂筋が魅力的なのだなと、あらためて認識した。演奏する人たちにとって、ステータスになっており、答申案にも書かれているが、御堂筋は最大限活用する意味合いでは、非常に価値の高いものであると実感している。

・新しい文化は多様性から生まれてくると思うので、「多様性のある文化の大阪」「進化する文化」というような言葉を盛り込んでいただければと思う。

・いつも思うが広報力が弱い。予算を抑えた広報もあると思うし、文化活動を行ういろいろな団体との連携等をすればいいのではないか。

・文化振興会議において答申を行うにあたっての、一つのポイントは選択と集中、選択の基準、プライオリティをどう決めていくのかということではないかと思う。文化戦略的な指針のようなものを決めていくべきと思う。

・ニューヨーク市では文化芸術産業に年間約100億円の投資をし、法人税、所得税等の税収が300億円ほどある。「支えられる文化」から「社会を支える文化」、あるいは「攻める文化」であるなら、いろいろな文化施策の中に、投資的な考え方を取り込んでいくことが大事。ばらまきではなくて、きちんと戦略を立てて、優先順位を付けて、投資的な形で社会に還元されていくような施策を、積極的に進めていく必要がある。

・文化行政における大阪府の役割をはっきりさせたいということだが、民間とのかかわりだけではなく、行政とのかかわりでいうと、やはり大阪市との関係が一番大きい。大阪府と大阪市が無駄なく、もっと積極的に連携するイメージが、どこかに盛り込めたらいいのではないかと思う。

・ルミナリエの集客や西宮の兵庫県立芸術文化センターの大成功など、今の文化力では、兵庫県に大阪は負けていると思う。貝原前兵庫県知事は文化に対して熱い。橋下知事が文化に関してどういう考えがあるのか、それが一番大事だと思う。

・橋下知事は全国的にも知名度が高く、革新的な動きをされている。知事を利用させてもらうといったら悪いが、今だからできるということがあるのではないかなと思う。

・行政は、平等性、公平性がどうしても出てくるので、選択と集中は、言うのはやすいが実行するのは難しいという、行政の体質があると思う。そのような部分を、今だからドラスティックにできるいい機会ではないか。

・そういう意味で、例えば一つはエンターテインメントということだと思う。今は、実際に税収が激減していて、なかなか行政にすべて頼ることはできないという現状がある中で、文化、芸術の産業化が一つの形だと思う。文化、芸術を産業化していくためには、エンターテインメント性が非常に重要で、大阪という街自体をエキサイティングであって、エンターテインメント性があるように。

・今、大阪府は兵庫県、京都より劣っていると思わない。逆に、日本の中でもめったにないチャンスを持った素晴らしいポジションにいると思う。

【答申の取りまとめについて】

・会長に一任され、会議での議論を踏まえて、取りまとめることとされた。

―　以上　―